「ウィズコロナ社会での地域住民の生活実態調査」（2023年3月実施） 調査結果のご報告

慶應義塾大学 SFC　未来フィールド研究プロジェクト

慶應義塾大学SFCの未来フィールド研究プロジェクトでは、今後のウィズコロナ社会でのまちづくりの参考資料とするため、 2023年2月～3月に、藤沢市遠藤地区にお住まいの方を対象とした調査を実施しました。ここに主な結果をご報告いたします。

■ 調査方法

遠藤地区内の自治会加入1,400世帯へ、無記名式の質問紙を配布、配布先世帯員のうち1名にご回答いただき、郵送にて返送していただく形で調査を実施しました。

2023/2月～3月の期間中に339通の返信をいただき（返送率：24.2%）、このうち性別・年齢に記載のあった335名分（23.9%）の回答を分析対象としました。

■ 結果

A　回答者の平均年齢や性別割合など

●**平均年齢**：62.7歳（最年少 19歳～最年長 89歳）

✓ 回答者の**約5割**が65歳以上の方でした。

●**性別**：女性　55.8%　・　男性　44.2%

✓ **65歳未満のグループ**では**女性の回答者**のほうが多く、**65歳以上のグループ**では**男性の回答者**のほうが多い、という傾向がありました。

●**家族構成**：「家族と同居されている方」が 91.0%

✓ 回答者の**9割が家族と同居している世帯**の方でしたが、回答者の年齢が**高く**なっていくにつれ、**一人暮らし世帯が増えていく傾向**がみられました。

●**主観的健康観**：「自分は健康だと思う」と回答した方が 86.3%

●**治療中の疾患**：「ある」と回答した方が 58.5%

✓ 定期的な通院を必要とする「治療中の疾患」が、「ある」と回答した方が**約6割**いる一方、「自分は健康である」と感じている回答者は、**8割以上**いました。
このことから、**「治療中の病気」があっても、「自分は健康である」と考える**方が多数いらっしゃることがわかります。

●**就労状況**：「就労している」と回答した方が　56.4%

✓ 回答者の半数以上の方が「就労中」と回答されていましたが、年齢が上がるにつれ、パートタイムや非就労の割合が増加していました。

●**精神的健康状態**：「中等度以上の心理的ストレスを感じている方」が24.8%

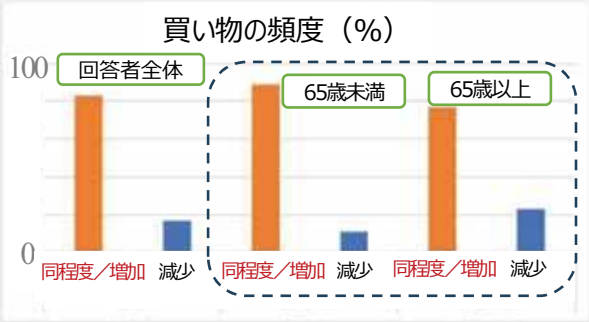
✓ 回答者の**2割**が**治療を必要とする中等度以上の心理的ストレス**を感じていることがわかりました。

→2年前の調査時と比べると、中等度以上の心理的ストレスを感じている方の割合は32.8%から24.8%へ減少しましたが、それでも「コロナ禍前の国民生活基礎調査」の10.3%よりも高く、**継続した支援や経過観察が依然として必要なことがわかりました。**

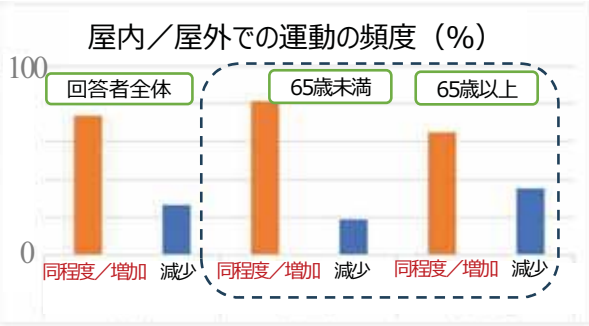
■ 結果

B 「コロナ禍前」と「現在」では、生活状況はどう変わったか

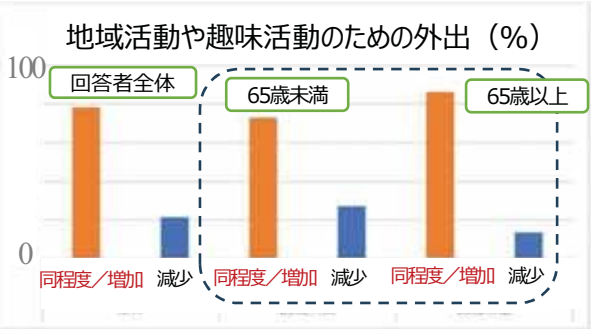
ここでは、**「回答者全体」の結果**とともに、回答者を「65歳未満」と「65歳以上」の**2つのグループに分け、比較した結果**についても、「65歳以上」の結果を中心に、ご報告します。



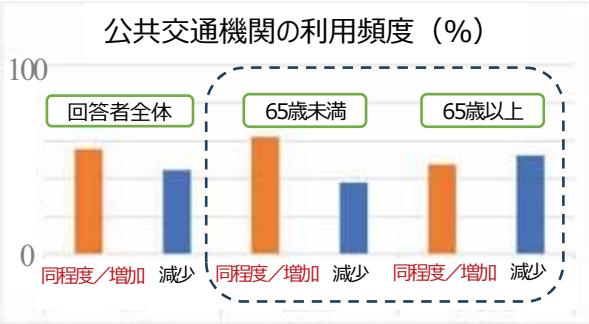
- 「**買い物の頻度**」は、回答者全体の**8割**が、コロナ禍前と**同程度**か**増加**していた。
- 「65歳以上」のグループの方が、コロナ禍前よりも減少したままの回答者が多かった。



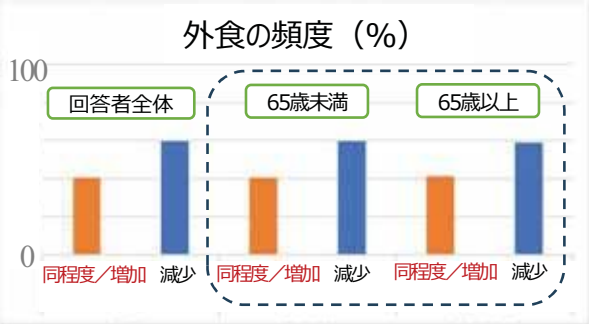
- 「**屋内／屋外での運動の頻度**」は、回答者全体の**約7割**が、コロナ禍前と**同程度**か**増加**していた。
- 「65歳以上」のグループの方が、減少したままの回答者が多かった。



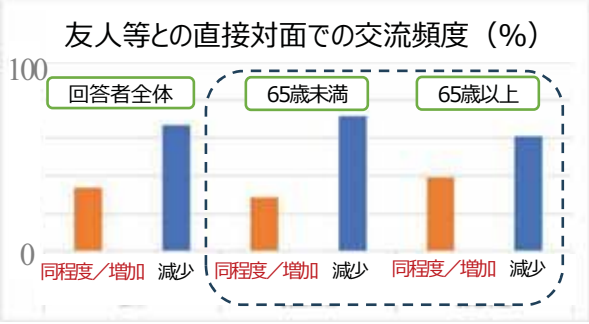
- 「**地域活動や趣味活動のための外出**」は、回答者全体の**約7割**が、回答時点でコロナ禍前と**同程度**か**増加**していた。
- 「65歳以上」のグループの方が、コロナ禍前の状況に戻った回答者が多かった。



- 「**公共交通機関の利用頻度**」は、回答者全体の**5割以上**が、コロナ禍前と**同程度**か**増加**していた。
- 「65歳以上」のグループの方が減少したままの回答者が多かった。



- 「**外食の頻度**」は、回答者全体の約6割が回答時点でコロナ禍前より減少していた。
- 「65歳未満」と「65歳以上」のグループを比べても、傾向に特に違いはなかった。



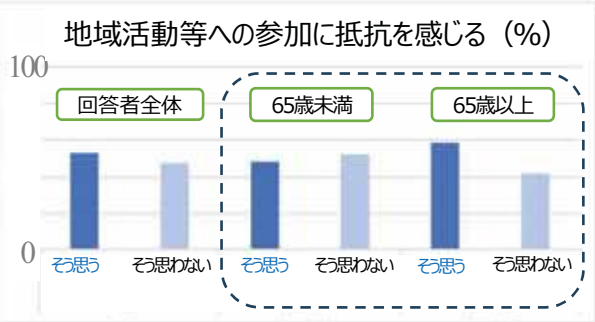
- 「**友人等との直接対面での交流頻度**」は、全体の6割以上がコロナ禍前に比べて頻度が減少していた。

【Bのまとめ】

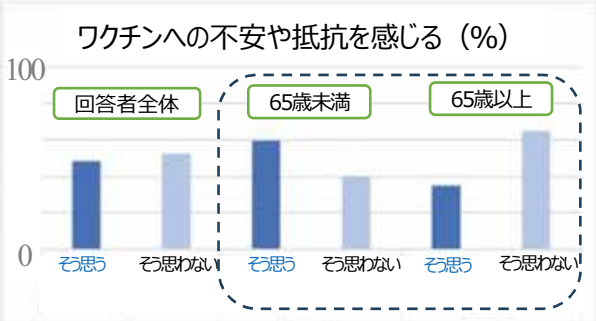
- ✓ 「**買い物**」、「**屋内外での運動**」、「**地域活動等のための外出**」は、全体の**7割**以上が**コロナ禍前の状況に戻っていました**。
- ✓ 一方で、「**外食**」、「**友人等との対面交流**」は、全体の**6割**以上が、依然として、コロナ禍前よりも**減少した状態**でした。

■ 結果

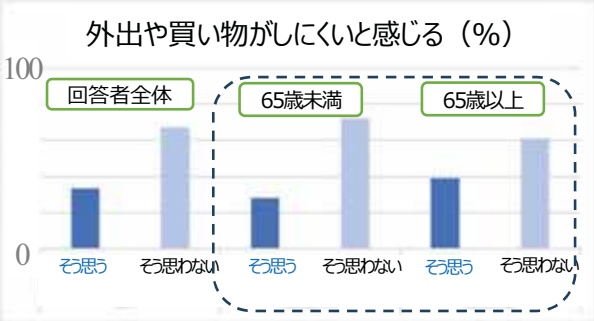
C 現在の生活の中での困り事について



- 回答時点で、**「地域活動等への参加に抵抗を感じる」**回答者は全体の5割で、依然として、半数以上の人々にとって、地域活動への参加には抵抗があった。
- 「65歳未満」と「65歳以上」のグループで比べても、回答者の割合に差はなかった。



- 回答時点で、**「ワクチンへの不安や抵抗を感じる」**回答者は全体の4割で、「65歳以上」のグループと比べると、「65歳未満」のグループに、ワクチンへの不安を感じている回答者が多かった。



- 回答時点で、**「外出や買い物がしにくいと感じる」**回答者は全体の3割で、「65歳未満」のグループと比べると、「65歳以上」のグループに外出への難しさを感じている回答者が多かった。

【Cのまとめ】

- コロナ禍前の生活と比較して、**「65歳以上」**のグループでは、**外出**や**運動の機会**が**減少**し、**地域活動への参加・外出や買い物のしにくさを感じている方**がまだ多数いらっしゃいます。**こうした方たちの心身機能の低下が**懸念されます。

→ **地域活動への参加や外出がしにくいという気持ちを生んでいる原因や環境があるのか、それは何かといったことについて、**より詳しい**検討が必要である**とともに、こうした方たちの**フレイル予防対策の**検討が重要と考えられます。

■ 結果（自由記載のまとめ）

【現在の生活について】

✓ 前向きなご意見

①リモートでの新しいコミュニケーション手段によって、別居の家族や遠距離の友人と交流する機会が増えた

②行政・学校・医療機関・地域活動などの体制や手続き方法等が効率化されたことで、待ち時間が減少したり、利便性が向上した

③配食や食品配達のサービスが充実し、配達エリアが拡大した

④感染予防や早めの受診など、健康管理に対する意識が高まった

✓否定的なご意見

①マスク着用に窮屈さを感じる、マスクを外すことに抵抗がある、マスクをしていない人のことが気になる、道端にマスクが捨てられごみが増えた、など

②感染（すること／させること）への不安から病院を受診しづらいと感じる、家族や友人と気兼ねなく会いにくいと思う

③外出せずともある程度生活できる環境が整備されたり、人が集まるイベントの開催頻度が減ったことで、外出や地域活動への参加機会が減ってしまった、高齢の家族の健康状態が心配

【現在の地域活動について】

①新規の参加者が減って心配。地域の交流機会として貴重な場なので、コロナ禍前に戻ってほしい

②活動時間の短縮や、参加人数の制限に閉塞感がある。活動内容が単調になりこれまでと比べ、楽しめなくなった

③地域活動がいつどこで行われているかを知る方法がわからない

④地域活動への参加を控えるようになった理由として、a）コロナ禍で自粛している間に、体力的に自信が無くなった、b）参加時のマスク着用や手指消毒に面倒くささや抵抗感がある、c）地域活動の参加方法が事前予約やインターネット予約になり、参加するまでの手続きが大変になった、など

■全体のまとめ

2023年3月は2020年初頭からのコロナ禍から3年が過ぎ、ニュースなどでは新型コロナウイルス感染症が「第2類感染症」から「第5類感染症」へ移行する可能性が報道されるなど、ウィズコロナ社会への移行時期でした。

買い物や屋内外での運動など、単独でも行える行動はコロナ禍以前に戻りつつある一方で、外食や友人等との対面交流、地域活動への参加など、他者との接触が多い行動については、依然として、控えている方や抵抗のある方が全体の半数以上いらっしゃいました。特に、65歳以上の方々に限定してみてみると、外出や運動の機会が減少し、地域活動への参加や外出や買い物のしにくさを感じている方も多い傾向がみられました。

今後は、引き続き日常生活の中での感染予防を行っていくことも重要ですが、ウィズコロナ社会で、どのようにコロナとともに生活をしていくか、心身の健康を維持していくか、そして、その障壁となっているものは何か、について検討していくことが必要であると考えられました。

■謝辞

調査の実施にあたっては、遠藤市民センター、遠藤まちづくり推進協議会、遠藤地区自治会連合会、遠藤地区社会福祉協議会、遠藤地区民生委員児童委員協議会の皆さまに多くのご支援・ご協力をいただきました。また調査にご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。ここに御礼申し上げます。

慶應義塾大学 SFC（湘南藤沢キャンパス）　未来フィールド研究プロジェクト
●メンバー：内山映子（政策・メディア研究科）、永田智子（看護医療学部）、山本なつ紀（看護医療学部）
Mail:　keiosfc.endo.project@gmail.com